

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが目にできる場所に掲げ、ユニット会議や勉強会において、自身のケアを振り返れるよう意識付けをし、統一したケアができるよう努めている	法人の理念やホームの理念は事務所、ホールなどの目に付き易い所に掲示している。合わせてユニットの理念もホールに掲示しており、職員の意識づけをおこなっている。ホーム理念、ユニット理念については職員で話し合い決めたもので、職員は理念を理解しそれに沿った支援に取り組んでいる。仮に不適切な言動等があった場合には、管理者が個人面談時に話し、注意を喚起している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地主さんの畑での収穫、学生さんや地域のボランティアさんの来訪、職場体験の受け入れ、月1回のかたくり便りでの活動の様子報告など交流の機会を増やしている	自治会費を払い町内会の一員として活動している。区長、民生委員より地域の情報、防災訓練、夏祭り等の案内を頂き、管理者が活動に参加している。月1回発行される「かたくり便り」を町内の回覧板にて廻し、防災訓練等の行事案内も行い地域との繋がりを深めている。中学生の職場体験を毎年引き続き受け入れ、レクリエーション中心に利用者と交流してもらい喜ばれている。合わせて高校生の傾聴ボランティアも来訪している。また、民謡クラブ、二胡演奏、オカリナ演奏等の地域ボランティアの来訪も定期的にあり利用者も交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアさんの来所時、実際に利用者様との触れ合いをもって頂き、職員の姿を見て頂いている 月1回発行の回覧板で施設の様子を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際は施設内の状況報告をし、頂いたアドバイス等はユニット会議において職員に伝え、日々のケアに活かしている	利用者家族、民生委員、区長、市高齢福祉課職員などに会議の案内を行い、奇数月の最終週に実施している。9月に行う敬老会には会議出席メンバーにも参加を頂いている。利用者状況の報告、活動報告、意見交換等が行われ、会議内容については職員にも報告し運営の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、市の職員さんに施設の状況を知って頂き、相談できる関係作りにも努めている	必要に応じ管理者が訪庁したり電話にて相談している。市役所の会議室で3ヶ月に1回行われる安曇野市グループホーム部会に参加し、情報交換や話し合い等を行っている。また、市主催の研修会には出来るだけ参加するようにしている。介護認定の更新調査は家族に連絡の上調査員が来訪しホームにて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束を行わないケアに努められるよう、勉強会において拘束の意識を高めるようにしている。 玄関の施錠においても、職員の付き添いで自由に出られるよう配慮している	拘束をしない支援に取り組んでいる。近くに幹線道路が走り安全確保のため玄関は施錠されている。外出傾向の強い方がいるがホームの周りを散歩したりお茶を飲んだりして対応している。家族と相談し安全確保のためセンサーマットを使用している方がいるが、状態を検討しつつ使用しないように努めている。また、利用者の動きを静止したり言葉を遮ったりしないよう心掛けている。毎月の勉強会の中でも話し合いを重ね意識を高めて支援に当たっている。	

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において職員の理解を深めながら、利用者様の日々の表情や言葉から虐待に繋がるケアがないかユニット会議・申し送りで話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、制度の理解を職員全体で深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事、疑問点などを遠慮なく言ってもらい、分からない事はいつでも聞いていただけるよう案内している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には匿名で記入できる意見箱を設けてあり、面会時にも気軽に職員に話して頂けるような関係を築いている。 頂いた意見は職員と共有し改善につなげるよう努めている	殆どの利用者が言葉で意思表示が出来るが五分の一方が難しい状況であり、優しく寄り添いつつ言葉をかけ表情で思いを汲み取るようにしている。家族の来訪は、週2～3回来訪される方から年2～3回の方まで様々であるが全家族の来訪がある。来訪の際には職員よりきめ細かく利用者の様子をお話するようにしている。9月に行った敬老会には家族の来訪が20名以上あり全員で50名を超え、盛大な敬老会が催され、民謡ボランティアの歌を楽しみ、紅白まんじゅうをお配りし、職員手作りの豪華オードブルにお寿司を取り食事も開催し、利用者一人ひとりに感謝状をお渡しして楽しいひと時を過ごした。夏祭りではスイカ割、綿あめ等を楽しみ、誕生日には外食に出掛けたり、3時のお茶の時にケーキでお祝いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が窓口となり、職員からの疑問や不安をいつでも話せるようにしている。 年2回の面談、必要に応じ個人面談などを行い意見の反映に努めている	月1回、夜2時間、全職員出席でユニット会議を実施している。勉強会、カンファレンス、意見交換等、前向きで活発な意見交換の場としており日々の支援の向上に役立てている。人事考課制度があり年2回基準に応じて自己評価を行い、それに合わせ管理者による個人面談が行われ意見の吸い上げに繋げている。職員には毎年3日間のリフレッシュ休暇が準備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課面談の際、職員の率直な意見を聞いている。 困りごとと悩みごとについても、管理者・主任に相談できる関係性を普段から築くよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の勉強会、会社全体の研修を通し、知識技術の向上に努めている。 外部からの研修案内も掲載し、勤務表に組み込んだり興味のある職員は参加できるようにしている		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に年4回のグループホーム部会に出席し、地域の施設職員との交流を通してネットワーク作りに努めている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、入居前のケアマネージャーとも情報交換を行い、ご本人がどのような生活を望んでいるか、何に困っているのかを探り、少しでも安心につながるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等職員が日常の様子や変化を伝えられるようにし、不安・要望を遠慮なく言って頂ける関係性を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが事前にご本人・ご家族と面談を行い、ご本人・ご家族の「不安や要望を見極め職員に情報提供する。入居後、ケアの中での気づきはケアマネージャーに伝え必要としている支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は一緒にやってもらいながら、時には長年の生活の中で得た事を利用者様に教わり、お互いに支えあえる関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所の際は、普段の様子や変化を伝え、ご家族の利用者様への思いを聞く機会を作るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも近所の方、同級生、職場での同僚などなじみのある方の訪問もあり、その際にはゆっくりと話ができるように面会場所の配慮をしている	近所の方や友人、昔の同僚の来訪があり、来訪の都度家族にも報告している。来訪の際にはホールまたは居室にてお茶をお出しし寛いでいただいている。年末には利用者の思いを乗せた手作りの年賀状を家族とお世話になった方々にお出しし喜ばれている。利用者同士の関係が不穏な時には職員が中に入り声掛けをしたり手助けをし、仲良く過ごせるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性も考慮し、時には職員が間に入りながら利用者様同士が関わり支えあえる関係でいられるように支援している		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族からの希望があれば支援できるよう準備している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の気持ちを大切にできるよう良い反応、不快な反応など表情をよく見て希望や意向を探っている ・本人の決断や選択も大切にしている	利用者個々の自己決定の気持ちを大切に言葉の他、表情や仕草、また、職員が提案をして思いを汲み取り、希望に沿った支援に取り組むように心掛けている。合わせてホームでの生活の様子や家族からお聞きした過去からの生活歴も参考にし、入浴時等、1対1で話し、その内容や昼間、夜間の様子を個人記録に纏め、申し送り等で情報を共有し意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居以前の暮らしの情報をご家族、入居前のケアマネからもらい、馴染みのある習慣ができる限り継続できるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・月に1度のユニット会議で少しでも変化のあった利用者様のカンファレンスを行い、今の状態にあった生活ができるよう職員全員で把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員は介護記録やユニット会議において利用者様の様子を把握し、ご家族に現状報告をし今後のケアの方向性を相談している	職員は1～2名の利用者を担当し日々の状況を把握している。ユニット会議でカンファレンスを行い、ケアマネージャーが課題を分析し利用者個々の対応について話し合い、その後にモニタリングを行いプランを作成している。短期の見直しは3ヶ月に1回で、状態が安定している場合は6ヶ月での見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時見直しをしている。家族との話し合いは来訪時と必要に応じ電話でも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録には利用者様の言葉・表情・しぐさを記入するように心がけ、日々の変化に気づいた事はユニット会議でカンファレンスを行い新たなケアに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ケアマネを中心にすべての職員が家族と話す事で様々な意見を聞くことができその方に応じた支援ができるよう努めている		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設内で職員とだけの生活とならないよう職員以外の来訪者を迎え入れ、施設内で過ごした後、見送りをする姿が見られる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族が受診の付き添いをする場合は、状態を説明し必要に応じ受診から受診までの間の様子を文書にして渡している 受診の様子や結果はご家族に確認し、職員間で共有している	三分の一の利用者が入所前からのかかりつけ医を継続しており、家族や職員の付き添いで月1回の受診対応となっている。他の三分の二の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、24時間対応の訪問看護師が毎週火曜日に来訪し利用者の体調管理を行い、合わせて足の処置をする利用者や点滴が必要な利用者があるので、プラス1日おきに来訪し処置をしていただき、医師との連携も取っている。口腔ケアについては医師による月1回の往診と歯科衛生士の訪問が月3回あり、口の健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・状態の変化に繋がりそうな時はすぐに訪問看護師へ相談し指示を仰いでいる。その際のご家族への報告も行っている ・夜間の急な変化に備え職員は交代でオンコール体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・早期に退院ができるようケアマネージャーを中心に面会に行き、担当看護師の様子を聞き状態を職員と共有している。退院時にはカンファレンスに参加し、サマリー(医療介護情報提供書)を基に退院後のケアや環境作りにも配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期を迎える時には、ご本人、ご家族、主治医、訪問看護師、施設職員とでカンファレンスを行い、利用者様の気持ちを汲み取りながら職員全体で情報共有しどのように対応するか明確にしている	重度化、看取り介護に係る指針があり利用契約時にきめ細かく説明し同意書を頂いている。また、その状況に至った時に改めて説明と話し合いを行い希望に沿った支援に取り組むようにしている。開設以来10数名の利用者を看取り、この1年でも1名の方を見送った。ターミナルケアに入ると家族、訪問看護師、職員、ケアマネージャーで協力医に出向きターミナルケアについての話し合いを行い、気持ちを一本化しつつ本人にとってより良い最期の時を迎えられよう支援に取り組んでいる。また、お見送りは利用者、全職員で気持ちを込めて行い、家族より感謝の言葉を頂いている。職員の心構えについては外部研修に合わせ訪問看護師からも講和を頂き支援に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の方による救命講習を受け、すべての職員が対応できるようにしている。 ・緊急時の対応マニュアルも用意しており、いざという時に備えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の指導を受けたり、施設内での避難訓練を通じ、対策をとっている・地域の防災訓練の参加も運営推進会議を通して情報をもらい、協力体制作りにも努力している	春と秋の年2回防災訓練を実施している。1回は消防参加の下、消火訓練、AEDの使用訓練、心肺蘇生の訓練を行い、消火訓練では全職員消火器に触れて訓練を実施している。また、地震想定、火災想定では利用者を安全な所へ誘導し訓練を実施している。避難時には利用者個々に住所と電話番号を明記した反射ステッカーを携帯するようにしている。備蓄については米、乾物、水、味噌、介護用品などが用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様が嫌だと感じる事、恥ずかしいと感じる事には細心の注意を払い、馴れ合いになっしまわれないよう、その方にあった声掛けや対応をするよう心掛けている	自分がされて嫌なことはしないということを基本に置き、日々利用者者に接している。言葉遣い、トイレ介助には特に気を使い、親しき仲にも礼儀ありで馴れ合い過ぎにならないように留意している。また、申し送りの際には利用者が聞いているのでスタッフの声の大きさに気を付けるようにしている。呼び掛けは利用者の希望により様々であるが、基本的に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員の判断を押し付けるのではなく、利用者様の表情や反応を見ながら利用者様が自分で決められる場面を作ってもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の都合に合わせた生活にならないよう、利用者様のペースで無理なく生活ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者様がができる整容はしてもらい、できない事は手伝わせて頂きながら、気持ちよく過ごして頂けるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・自らキッチンに入り、調理の手伝いや片付け等を日課にして頂いている利用者様もあり、その際の味見や職員との会話で食に対する楽しみや意欲を引き出せるように努めている	食形態は様々であるがほとんどの利用者が自力で食事ができ、全介助の方もいる。家庭料理を意識した料理を中心に提供し、職員と共にお喋りをしながらの楽しい時間を過ごしている。献立は冷蔵庫の中の物を見て職員が考え調理し、時々お弁当を取ったりして変化もつけている。また、季節にあわせ利用者の希望も聞き、ちらし寿司、手巻き寿司等を楽しんだり、誕生日には近くの食堂にも出掛けている。お正月にはお一人様用おせち料理とノンアルコールの飲物を準備し、クリスマスにはケーキでお祝いしている。利用者は下準備、味見、洗い物など、出来ることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者様の状態に合わせた食べ物の大きさ、柔らかさを工夫し、水分が摂りにくい方は飲み物を変えたり、少しずつ何度でも飲んでもらう事でバランスが取れるよう工夫をしている		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの必要性を理解し、訪問歯科を利用している利用者様もいるため、ケア方法のアドバイスをもらいながら、適切な処置やケアができるようにしている	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄管理表を使用し、排泄パターンの把握に努力し、使用物品、声の掛け方等様々な面から工夫をし、その方にあった排泄ケアができるように努めている	見守りで自立している方が三分の二ほどおり一部介助の方が三分の一という状況である。排泄管理表を使用し利用者個々のパターンに合わせ食事前、お茶の前等に声掛けするようにしている。スムーズな排便促進を図るために、水分、ヨーグルト、牛乳、また、家族の希望でサプリメントを効果的に摂取している方もいる。介護用品の費用削減を図るためにケアマネージャーが家族と相談し吸水量の多い物を使うようにしている。トイレ表示は分かりやすく、「お便所」と大きな表示がされている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の及ぼす影響を理解し、食事の工夫・水分の摂取を促している ・医療面からもその方にあった整腸剤の処方等主治医へ相談しながら支援を行っている	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日は決まっているが、本人の体調や気分配慮して時間をずらしたり、別の日にも入れるよう支援している。 ・羞恥心にも配慮し、気持ちよく入浴できるように努めている	広々とした浴室には3方向から介助の出来る一般浴槽、シャワー浴、特殊浴槽の3種類が用意され状況に合わせて対応出来るようになっている。基本的に週2回以上入浴を行い、外出、失禁、汗などの状況により入浴とシャワー浴を併用し気持ち良く過ごしていただけるようにしている。入浴の際には転倒リスクの回避や安全確保を図るため浴室に畳を敷いて入浴している。拒否の方も数名いるが、時間を変え、職員を変え、また、誘い方に工夫をこらし、入浴をするよう取り組んでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでもご本人のペースで自由に休む事ができるようにしている ・夜間も眠くなるまで自由に過ごして頂き、利用者様の眠くなったタイミングで休めるように支援している	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの服用している薬の内容を把握し、状態観察をしながら変化にも注意している。また誤薬・投薬もれがないよう職員同士での確認も徹底している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、好きだった事等を日常会話から探り、日々の生活に取り入れている。 ・旬のものを使った料理は利用者様に教わり、職員も一緒に楽しんでいる	

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスでの外気浴、スーパーへの買い物、ドライブがてらの受診、誕生日の外食等行い、地域の方と触れあう機会を作っている時にはご家族の協力による外出の機会を持たれている方もいる	外出時、車イス使用の方が半数強、見守りでの自力歩行の方が半数弱という状況である。日常的には天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、テラスに出て昼食を食べたりお茶を飲んだり、畑を眺めたりして外の空気にふれるようにしている。また、季節に合わせて事前に計画を立てバラ園の見学等、ドライブを兼ね外出している。合わせて受診の帰りに買い物、お茶等、誕生日には外食外出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人でお金を管理している方はいないが、いつも持っているバッグの中に現金を入れ、それが手元にある事で安心に繋がっている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様から電話をしたい希望がある時は、ご家族に協力頂き、話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・心地よい照明の明るさにし、季節に合った飾りつけや花などで季節感を感じて頂けるようにしている。トイレ・浴室は分かりやすく張り紙をし、混雑を招かないよう工夫をしている	ユニット間の行き来が自由に出来るように仕切りに工夫がされており、利用者同士自由に往来し交わっている。ホール、廊下も広く開放感が漂っている。テーブル上には季節の花が飾られ四季を感じることが出来る。壁には顔写真入りの職員紹介、利用者の作品、利用者一人ひとりの日常の様子を紹介した写真、合わせて行事等の写真も飾られ、利用者が思い思いの生活を送っていることが窺える。空調は床暖房とエアコンで快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・その時の気分に合わせて、居室で過ごしたり、ホールで皆さんと過ごしたり、隣のユニットで気分転換をしたりなど、過ごしたい場所でくつろいで頂けるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具、家族との写真、時計等馴染みのあるものを身近に置き、安心できる居心地の良い場所になるように努めている	掃除が行き届き清潔感漂う居室の中で自由に生活している。持ち込み自由で、使い慣れた家具、イス、テーブル、利用者によっては家の書齋をそのまま移動された方もおり読書を楽しんでいる。壁には家族の写真、職員から送られた誕生日のお祝いカード、ホームから送られた敬老会の感謝状等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・歩行の妨げになるような物はないか、危険のない空間を作るように常に努めている。 ・トイレ、浴室にはわかりやすいように張り紙をし、利用者様によっては居室に名前を張ったりと目印になる物を飾ったりしている。		